

せんだん苑こども園における自己評価

評価項目	取り組み状況	
教育及び保育の目標 全体計画・指導計画 教育・保育課程 教育環境の整備 行事 等	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教保育について。朝のお参りでは、乳児から幼児まで「ののさまに手を合わせる」ということが習慣化できている。「優しい心」「命の大切さ」「相手を思いやる心」を一年を通して育てられている。仏教行事（花まつり・地藏盆・だるままつり・成道会・涅槃会）を通して、お釈迦様に親しみをもつことが出来た。毎月の仏教保育のねらいは、毎日唱和することで、子どもたち自身が意識することができていた。3～5歳児には、毎週仏教童話を話すことで、ねらいも伝えやすかった。 ・保育計画については、毎月の会議で園長が仏教保育の徳目について説き、ねらいに沿ってたてられた。担当以外の指導計画についても、理解を深めたり知る必要があると感じ、今後の課題である。 ・片付ける場所を、物に写真を貼るなど整え、子どもたちが分かりやすく、進んで片付けられるようになった。朝夕の合同保育でのおもちゃの使い方などを考え、職員間で共通理解することが課題。感染予防対策もあり、おもちゃや部屋の消毒は意識してできた。 ・1歳児クラスに子ども用洗面台を設置。衛生面を整え、保育もスムーズに行えるようになった。 ・行事を通して、各年齢で子どもたちの最大限の力を生かしたり、挑戦する意欲を育てることが出来る内容に出来た。 	
教育・保育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢、月、その時の子どもの姿に合ったねらい、内容を考え、保育を行っていった。育ってほしい姿を意識して保育できた。 ・季節の行事では、その都度制作をしたり、紙芝居を見たり、本物のお雛様、五月人形などに触れることで、興味関心を深めた。 ・泥遊びや田んぼ遊び、ボディペインティング、土手滑りなど体全体を使った様々な遊びができた。 	
職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が「言語」「運動」「絵画」「造形」「保健衛生」「女王官理」「長育」の各部会に所属し、それぞれ部会で積極的に研究に取り組めた。 ・継続して指導を受けている講師による絵画表現研修を行い、ほとんどの職員が参加した。特に3～5歳児クラスは、「お話を絵にするコンクール」「全国教育美術展」に出品するにあたり、絵画表現活動、また指導に対してより学べた。 ・8月には絵画研修を実施し、絵画作品について助言をいただき、「お話を絵の取り組み方」をテーマに学んだ。他のクラスの取り組み内容も理解しお互いで研鑽できた。 ・京都府保育協会に実施されている「マリアノアツノ」研修に参加。今年度はオンラインでの研修に変わつたが、ZOOM研修にも積極的に参加した。 ・問題・課題があるときには、職員会議で話し合い、周知することに努めていけるようにする。周知徹底に努める。 ・今後もより一層園内研修を充実させるよう計画を立てる必要がある。 	
研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月図書館から、それぞれの月のテーマに合わせた絵本をまとめて借り、様々な種類の絵本・紙芝居に触れることができた。文字に興味をもったり、想像力をつけることができた。 ・発音の不明瞭な子どもがいるので、その子どもへの働きかけが課題。 (3歳児)「ことば発音カード」を作ったが活用の仕方は今後の課題。 (4・5歳児)「言葉のすごろくゲーム」は遊びの中でも発音を意識する良い機会になった。様々な単語も知ることが出来た。 ・3～5歳児は、仏教童話にて、漢字に親しみながら、月のねらいについて分かりやすく考えられた。 	
研究の 取り組み	言語	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に応じた運動カードを作った。日常の中で楽しく体を動かせるようにした。 ・前年までと変更し、「縄跳び検定」を「縄跳びチャレンジ」、「鉄棒検定」を「鉄棒チャレンジ」に変更し、子どもたちに楽しみながら無理なく行えるようにした。それぞれの子どもが、目標を持ちながらチャレンジすることができて良かった。カードを活用しながら、体力作りが出来た。継続して取り組めた。 ・全園児が出来る体操を取り入れ、毎朝楽しく体を動かせた。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・廃材や身近にある草花、その他様々な素材を使い、制作・造形に取り入れ、いろいろな表現を楽しむことが出来た。 ・乳児から絵の具を使った表現活動が出来た。また、夏はボディペインティング、ジュースやさんごっこの色水遊び、雪の日は色水でかき氷やさんごっこなど、季節を楽しむ表現遊びも出来た。 ・絵画展、造形展、版画展を開催し、年齢に応じた作品が作れ、保護者にも鑑賞してもらえた。 造形展は、乳児と幼児と展示を分けたことで、十分なスペースで展示できて良かった。子どもも各年齢の作品の鑑賞をゆったりと楽しむことが出来た。 造形展での作品紹介掲示では、写真も使って分かりやすく、子どもの伸ばしたい力や成長した姿を保護者に伝えられた。 ・「お話を絵にするコンクール」学校賞受賞 評価をもらうことで自信につながった。 ・4～5歳児は「折り紙ランド」の取り組みでは、苦手な子どももやり遂げられて良かった。。
	絵画・造形 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防に努めた。子どもが使いやすいハンドソープのディスペンサー、ペーパータオルホルダーを設置し、自ら洗い易い環境を整えらるとともに、手洗い・うがい・消毒などの徹底を促した。 3～5歳児対象の「手洗い実験」の体験をし、普段の手洗いの仕方を見直すきっかけとなり良かった。 ・年に3回保健だよりを配布したり、感染症が流行した際に注意点など掲示してお知らせをしたりして、病気について保護者に周知できた。 ・手洗い・消毒の徹底により、感染症の流行を抑えた。 ・水遊び時には、水温、気温、残留塩素濃度など測定、記録し、安全に衛生的に行えた。
	保健・衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・園外への散歩にて、一緒に信号を確認したり、道路の歩き方、渡り方などを伝え、経験することで交通安全やルールについて学べた。 ・「お散歩マップ」を整備した。安全に園外にお散歩できるルートを全職員で確認した。 ・傷んだおもちゃの修繕、処分をしたり、おもちゃ倉庫の整理、また園内の危険を点検し、環境を整えた。 ・職員会議などで、ヒヤリハットや怪我の周知を行い、安全に過ごす意識がもてた。 ・毎月の避難訓練を、日時を決めずに、随時で行うように変えた。また、保育以外の職員も全員参加するように徹底した。 子どもの動き、保育士の動きについて、実施の都度課題を見つけることが出来るようになった。 指定避難場所の日東精工アリーナにも行き、確認した。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキングや野菜を植える経験をし、食に興味を持てた。 ・3～5歳児は、野菜を育て、成長を観察したり、収穫していただいた。旬の食材の皮むきや水洗い、年齢に応じたクッキングの体験をして、食材に触れることが出来て良かった。 ・コロナウイルス感染予防のため、縦割りでのクッキングができなかったことが残念だった。 ・5歳児では、田植えからお餅つきまで、お餅づくりの全過程の経験ができ、良かった。
食育		

<p>子育て支援 園児の保護者支援</p> <p>地域の子育て家庭支援 地域との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートや口頭で不安なことを聞き、その都度保護者の気持ちに寄り添ったり、助言するなどし、不安な気持ちを和らげ、信頼関係を築くことができた。 ・0～2歳児は、毎日連絡ノートを通して、担任と会えない日も、密に連絡を取りあうことが出来た。 ・3～5歳児は、掲示板にて一日の様子を伝え、ノートにて個人的な連絡や体調の把握が出来た。 ・保護者への掲示では、写真を使い、子どもの成長を保護者と一緒に共に感じる事ができた。また、保育の取り組みについて、子どもにどんな力がつくのかななどを分かりやすく伝えられた。 ・年に2回クラス懇談会を実施し、子どもの園での様子を伝えたり、参加した保護者同士交流できる機会となった。 ・年度初めに家庭訪問を実施し、保護者の願いなどの思いを知り、同じ方向に寄り添って子どもを育てることができた。 ・保護者から相談があれば、相談室を活用して相談の時間がもてた。 ・地域との交流(青野サロンでの高齢者との交流など)がなくなったのは残念。 ・地域子育て支援センターにて、市内全域対象に家庭で保育されている保護者の支援に取り組んでいる。 綾部市こども支援課、保健推進課の保健師や栄養士、主任児童委員や民生児童委員などの地域の支援者、京都府中丹東保健所や中丹管内の子育て支援施設と連携を取っている。 ・「LINE公式アカウント」を開設し、LINE相談に取り組み始め、コロナ禍において、外出しにくい親子にも支援の手が行き届くよう出来た。
<p>特別支援保育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な子に対して、職員会議などで共通理解をし、声の掛け方や支援の仕方を共有した。 ・コロナの影響で、年中児発達サポート事業事後巡回での言語検査が実施されなかったり、十分にできないこともあったが、言語に関しては、保護者と十分に話し合い、支援に繋がられたこともあり良かった。 ・個別の指導計画の作成については課題である。
<p>小学校との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こども要録にて、小学校に3歳児からの子どもの様子を伝えている。 ・綾部小学校の「給食試食会」や「小学校体験、小学生との交流」が中止となり残念だったが、綾部小学校よりDVDをいただき、映像にて学校の様子を観ることができて良かった。年長児クラスでは、学校ごっこや小学校と同じ牛乳を飲む体験などをした。 ・アプローチカリキュラムの作成については課題である。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染予防対策を日常的に努めた。行事については、人数の制限や分散の方法など工夫して、また、保護者にも理解を求め、実施することができた。